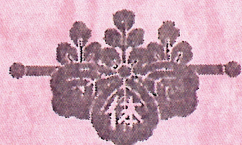


健康管理センター報告書

第2号（平成11年度～15年度）



日本女子体育大学

目 次

I. はじめに	
1. 本センター設立時の意義づけと設立時の取り決め	1
2. 健康管理センターの課題と今後の方向	1
3. 平成 16 年度の状況	2
II. 各部局の活動内容	3
1. 健康管理室の活動	3
(1) 健康管理	3
(2) 健康相談と診療	3
(3) 応急処置	3
(4) 健康診断証明書の発行	4
(5) 救急箱貸出・管理	4
2. リハビリテーション室の活動	4
(1) リハビリテーション室の利用状況	4
(2) 利用者の学年内訳	4
(3) 運動部との関係	5
(4) 利用者のおもな傷害部位	5
(5) 実施している理学療法	6
(6) リハビリテーション室勉強会	6
3. カウンセリングルームの活動	6
(1) 開室曜日と時間	6
(2) 相談状況	6
III. 活動報告（平成 11 年度から平成 15 年度まで）	
1. 定期健康診断	8
(1) 実施日程（平成 15 年度）	8
(2) 検査項目	8
(3) 医師および担当機関	8
(4) 受診者率	9
2. 健康管理センター利用状況	10
(1) 健康管理室（応急処置）	10

① 年度別・月別利用者数	10
② 応急処置の内訳	11
③ 内科受診数	13
(2) 整形外科	14
① 年度別・月別利用者数	14
② 年度別・月別新規利用者数	15
③ 年度別・月別再診利用者数	16
(3) リハビリテーション室	17
① 年度別・月別利用者数	17
② 一日当たりの平均利用者数（年度別・月別）	18
③ 年度別・月別新規利用者	19
(ア) 年度別・月別新規利用者	19
(イ) 年度別・月別新規の部位数年度別・月別新規の部位数)	19
(ウ) 年度別理学療法実施件数	20
(エ) 運動部・同好会新規利用者数	21
(オ) 傷害部位別新規利用者数	23
(カ) 所属別・学年別新規利用者数	24
(4) カウンセリング室	25
① 年度別・月別利用状況	25
② 相談内容別件数	25
③ 学年別利用者件数	26

IV. 関連資料

1. 関連研究会・会議への参加	27
2. 健康管理センターを利用した研究の発表	27
(1) 学会発表	27
(2) その他の雑誌等	27
3. 健康管理センター職員（平成 15 年度・16 年度）	27
4. 健康管理センター運営委員会	28

I. はじめに

本健康管理センターは、平成5年度の4月に黒田善雄教授がセンター長となって開所され、平成16年度は、開所後11年目となります。開所後6年目の平成11年には、本センターの報告書（平成5年度～10年度）第1号を刊行いたしました。それからさらに5年たち、本報告書（平成11年度～15年度）は第2号となります。年度始めに刊行を予定していましたが、諸般の事情で遅くなり年度末となってしまいました。センター職員の方々のご協力を得て、ようやくまとめることができました。

1. 本センター設立時の意義づけと設立時の取り決め

本報告書の第1号には、センター設立までの経緯や、意義づけ、設立時の取り決めについてが掲載されていますが、これらについて簡単ですが、第1号に初代センター長の黒田教授が書かれた部分を引用しながら、ここに記録に留めておきたいと思います。

本センター設立にあたって、本センター設立準備委員会が学生・教職員に要望・意見をアンケート調査を実施しました。その結果、学生の要望が最も高いと推測されたのは、スポーツ傷害に対する医療サービスでした。

そこで、「トレーニングやスポーツ活動を日常的に行っている学生にとって、もっとも重要なことは、スポーツ選手としての健康管理と、スポーツ傷害に対する正しいスポーツ医学的対応」と捉え、「センターの重点としてスポーツドクターによる医学相談・診療とスポーツ傷害のリハビリテーションを考える」とことと、「スポーツ傷害の予防などに関する研究・教育に必要な機器の設置もあわせて行うこと」となりました。

本センターの意義としましては、「スポーツ選手を対象としたこのような総合的健康管理施設、とくにリハビリテーションや傷害予防に関する研究・検査機能をも備えた施設は、わが国の一般大学、体育系大学や一般医療施設においても先例のないもので、体育・スポーツ界において大いに誇れるものである。本学内における学部・基礎体力研究所・大学院の研究機能等を総合活用すれば、わが国のスポーツ医科学の中心的存在となることが期待され」とあります。現在では、その後設立されたスポーツトレーニングセンターの機能も含め、本学のスポーツ科学研究の一端を担うことが期待されるといえましょう。

尚、設立時の都衛生局、所轄保健所との取り決めとしては、「医療保険の適用は当面行わない、診療活動は学生、教職員の学内に限って行うこととする、利用者の診療経費は基本的には無料とし、高額な材料などは実費の本人負担とする」とされています。

2. 健康管理センターの課題と今後の方向

本報告書から、本学の学生の健康状態やスポーツ傷害の実態が伺われると思います。本学で学ぶ学生がより好ましい健康状態で、勉学やスポーツ活動に励んでいけるために本セ

ンターがあるとすれば、現在の学生の実態をみつめつつ、常に最も望ましい方向を探る必要があるといえます。

体育大学としての本学では、設立の意義づけに述べられているスポーツ活動における傷害の問題は第一に重要な課題のひとつです。体育大学随一の施設を誇る本学のリハビリテーションの施設や機器を生かし、リハビリテーション室では連日多数の学生への理学療法の施行と、その学生のスポーツ活動への助言や、希望者への勉強会も行っています。また、本施設を使った研究も理学療法士や整形外科担当医によって活発に行われています。

一方、近年では若い人々に多い心の問題や、それからくる身体の問題、とくに若い女性としての問題も多くなってきました。これに対しては、平成 10 年度からカウンセリング室が開かれ、11 年度からは内科相談が開かれています。

また、問題が生じてからではなく、授業以外に学生への健康教育や傷害予防の教育や指導の場を設けることも考えており、学内禁煙の動きに対応して、喫煙防止教育や禁煙サポート活動の試みもはじめています。色々な場での学生への働きかけの中で、個別に問題を抱える学生がセンターに行ってみようかと考えてくれるようになればと考えています。

3. 平成 16 年度の状況

最後にこの報告書にはまとめてありませんが、16 年度について簡単に記しておきます。

今年度から本学スポーツ医学担当医による、スポーツ医学外来が随時開かれるようになりました。整形外科ではない、スポーツをする上での医学的な問題を抱える学生への対応も始めることができました。

さらに 17 年度には、カウンセリング室のさらなる充実が予定されており、本学の学生の身体や心の健康の改善にセンターがさらに充実した内容で対応できることと期待しています。

健康管理センター長 中村 泉

Ⅱ．各部署の活動内容

1．健康管理室の活動

健康管理センターは、学生・職員の心身の健康保持増進について指導・援助を図る為に、次のような業務を行っている。

(1) 健康管理

1) 定期健康診断

全学生が対象で、自己の健康に関心が持てるように、事前にポスターを掲示するなどして受診を促している。健康診断の結果は、就職やアルバイト、教育実習などの際に必要となる健康診断証明書の基礎データとなる。

2) 健康診断後の保健指導

健康診断の結果、再検査や精密検査が必要になった学生を呼び出し、呼吸器・循環器系の疾患に関しては、適切な医療機関への紹介を行っている。また、貧血が見られる学生に対しては、食生活指導と3ヵ月後に当センターにて再検査を行い、貧血治療が必要な学生に対しては医療機関への紹介も行っている。尿検査においては、糖・蛋白・潜血の陽性者に対して、当センターにて2～3回再検査を行い、いずれも陽性となった学生に対しては、医療機関への紹介を行っている。

(2) 健康相談と診療

身体面・精神面の相談に応じ、適切な医療機関への紹介を行っている。また、内科医による健康相談・診療を週1回、臨床心理士によるカウンセリングを週2回、整形外科医による診療を週1～2回、予約制にて行っており、整形外科医による診療後は、医師の処方箋に基づき、理学療法士による治療が受けられるようになっている。

内科・整形外科・理学療法・カウンセリングの受付時間等の詳細は、センターの入り口に掲示している。内科・整形外科は、当センターの窓口で予約を受付けており、全学生・職員が受診出来る（診療日当日、予約なしで救急対応する場合もある）。

(3) 応急処置

急病や外傷などに対して応急処置を行い、当センターで対応出来ない場合は、適切な医療機関を紹介している。

(4) 健康診断証明書の発行

定期健康診断受診者は、その年度内に限り健康診断証明書の発行が可能となり、証明書は、学生自身が自動発行機で発行出来る。特記事項などがあり自動発行機での発行が不可の場合は、当センター窓口で発行している。また、定期健康診断未受診者は、その年度内の健康診断証明書の発行は不可となる。

(5) 救急箱貸出・管理

申込みに応じて、学内外施設・各行事などに救急箱を貸し出している。

2. リハビリテーション室の活動

リハビリテーション室の活動は平成 5 年 12 月に部分開設、平成 6 年度より全面的に開設され、平成 15 年度をもって 10 年間を経過した。当大学が設置している健康管理センターリハビリテーション室は設備的に充実しており、また理学療法士が常勤で臨床にあたる、日本国内体育大学で唯一の施設である。そのためお手本となる前例がなく、試行錯誤を繰り返した 10 年間であった。開設当初は受け入れ態勢が整わず、利用に際して学生には不自由な面も多々生じたが、健康管理センタースタッフ、教職員の方々からのご理解とご協力を得て、運営整備が徐々に整えられ円滑な運営を行えるに至っている。リハビリテーション室の運営が安定しやっと土台作りを終えた感がある。これまでは臨床活動を中心に活動を行ってきたが、次の 10 年間は体育大学における健康管理センターの役割をふまえ、これまでの活動を社会的活動に切り替えた展開がしたいと考えている。

第 1 号報告書は平成 6 年度から平成 10 年度までの利用状況を報告した。今回、第 2 号を発行するにあたり平成 11 年～平成 15 年度の利用状況をまとめ報告する。

(1) リハビリテーション室の利用状況

平成 11 年度から 16 年度の 5 年間の利用者数は 20,445 件、新規利用者数 1031 名(1,299 件)であった。平成 12 年 6 月より週休 2 日制が導入され土曜日診療が廃止された。そのため診療実施日が減少、利用者数が減少している。また放課後時間帯の学生受け入れも行っていたが、学内における諸般の事情により平成 12 年度より診療時間を部分的に短縮、平成 15 年度からは放課後の受け入れは行っていない。しかし年間利用者数は 4000 件前後あり、学生は授業の空き時間などを上手く利用して来館しているようである。同時に平成 12 年度 11 月より診療補助非常勤職員 1 名を週

2日配置、平成13年度からは週5日配置して頂いた。リハビリテーション室を利用する多くの学生の診療を理学療法士1名で対応するのは困難であったが、診療補助非常勤職員の配置で充実した診療を行えるようになった。

年間利用状況推移では前期開始後の4月～7月、後期開始後の9月～12月に2つのピークがある。4月～7月には1年生の利用が多い。またこの期間運動部においては春期・秋期リーグ戦などの公式試合日程があり、そのため運動強度が増すことも利用者数増加の原因の1つである。

(2) 利用者の学年内訳

1年生の利用が多く、上級生ほど新規利用者が減る傾向である。1年生は高校での運動活動終了後、運動する機会が少なくなり体力低下・体重増加が起こる。大学入学後に運動部に入部し、上級生と同じ練習メニューに参加しケガを生じているようである。また慢性外傷を有している学生では、運動活動の中止によって症状が消失するが、運動活動を再開し症状が再発しているケースもある。健康管理センターには症状が出現してからの来館のため、1年生のケガの予防には運動部との協力が必要であると考えている。

(3) 運動部との関係

新規利用者のなかで運動部に所属している学生は1,152件(89.9%)、運動部に所属していない学生は130名(10.1%)であり、運動部に所属している学生の利用が9割である。利用が多い運動部は陸上競技部、バスケットボール部、バレーボール部である。これらの運動部は外傷管理に関する意識が高い。学生スタッフ(マネージャー、トレーナー)が選手のケガや痛みに対して、健康管理センターと協力し対応が出来ている結果である。競技レベルでの運動活動は高度な身体活動を要求され、そのため外傷が発生する頻度も高い。早期からの適切な対応は症状の増悪を防ぐことにつながる。学内敷地内に健康管理センターが設置されているという環境的な利便性を生かした対応が出来るよう心がけて運営している。

(4) 利用者のおもな傷害部位

おもな傷害部位は膝関節、足関節、腰部、足・足趾部、大腿部、肩関節である。利用している学生の多くがバスケットボール部、バレーボール部に所属しており、その競技特性から下肢の傷害が多い結果となっている。いずれの競技もジャンプや方向転換を頻回に繰り返し、またバスケットボールではランニングやコンタクトプレーがあり靱帯損傷などの急性外傷、あるいは膝蓋靱帯炎などの慢性外傷を生じている。大学入学前の外傷による後遺症(関節不安定性、痛み)が2次的原因となり慢性外傷を生じているケースもあり、出来る限り早期からの対応が出来るようにしたいと考えている。

(5) 実施している理学療法

第1号の報告と同様に、鎮痛を目的とした物理療法（ホットパック、渦流浴、電気療法、超音波）の利用が多い。また患部訓練は外傷後の機能回復を目的として行われる運動療法（関節可動域訓練、筋力回復訓練など）以外にも、ランニングやステップ、ジャンプなども指導し、運動活動への復帰がスムーズに行えるようにしている。また練習前の準備として身体活動を効率よく行わせ、ケガの予防を図る目的でおこなう運動療法も指導・実施している。患部外訓練についてはトレーニングセンターの利用を勧め、また練習中に行える運動を指導するなどしているため実施数は少数である。テーピングについては医療的管理が必要な時期を過ぎたものについては、学生スタッフ（マネージャー、トレーナー）へ指導を行い、運動部の協力を得て対応している。

(6) リハビリテーション室勉強会

将来、体育教員やスポーツ指導者を目指す学生を集め、怪我が生じた際の対応やリハビリテーションの知識を確認し、より高めるための勉強会を平成14年度より年6回開催している。勉強会の主な内容は解剖学的な復習、代表的な外傷についての発生要因、症状やリハビリテーションとしている。

理学療法士 板倉 尚子

3. カウンセリングルームの活動

平成10年の開室から6年が経ち、学生の間で、カウンセリングルームの存在が多く知られるようになった。リーフレットの配布、案内の掲示、一年生入学時のオリエンテーションの際に行う説明等の効果によるものと考えられる。

現在では、家族、友人、担任には相談しにくい心理的問題を中心に継続カウンセリングを希望する学生が多くなった。カウンセリングルームが、自ら自分自身について深く考える場として利用されている。

(1) 開室曜日と時間

平成11～15年度は、週2回、火曜日と木曜日の14:00～17:00に開室した。カウンセラーに直接、相談の申込みができるよう、カウンセリングルーム前に設置した「申込み受付箱」と「直通電話」を用意している。

(2) 相談状況

カウンセリングルーム開室以降、利用者は年々増加している(V.活動報告、2.健康管理センター利用状況 (4) カウンセリングルーム表 1)。上に述べたように、学生に、カウンセリングルームの存在が周知されてきたためと思われる。

相談内容にみると、いずれの年度も「心理的問題」と「進路」の件数が多い(V.2.(4) 表 2)。「心理的問題」とは、摂食障害、自傷行為、抑うつ感、対人緊張など、現在の日本の若者が抱える問題と一致するものである。これらの悩みをもつ学生は、継続カウンセリングを必要とし、回復までに長期の時間を要する場合が多い。また「進路」で悩む学生は、その問題を考えていく過程で、かならずといっていい程、自らの性格、家族関係、生育歴をみつめ直し、将来を考えていくようになる。

学年別相談件数では、4年生の利用者が毎年増えていることが特徴である(V.2(4) 表 3)。4年生が入学した当時は、まだカウンセリングルームの存在も知られていなかったこともあるだろうが、教育実習で自信をなくしたり、社会に出る前に不安を感じたりする、4年生特有の問題も出てきているためと思われる。

今後、様々な価値観の中で悩みや問題も複雑になっていくことが予想される。健康管理室、担任、リハビリテーション室等と連携をはかりながら、学生の「心の健康」に役立ちたいと考えている。

臨床心理士 上 平 京 子

Ⅲ. 活 動 報 告 (平成 11 年度から平成 15 年度まで)

1. 定期健康診断

学生への健康診断は、各学年に対して年 1 回 4 月に実施されている。但し、卒業学年・幼児発達学専攻 1 年への健康診断はその前年度 2 月に実施している。これは、教育実習・保育実習の受け入れ校への健康診断書の学内提出期限が 3 月であることに対応している。就職活動の健康診断書も 2 月健康診断の結果を元に、校医の確認を受けて発行している。

(1) 実施日程

例年ほぼ同じ時期に実施している。

表 1. 定期健康診断の実施日程 (平成 15 年度)

日 程	対 象 者
4 月 10 日	体育学部 2 年 (幼児発達学専攻を除く)、3 年
4 月 11 日	体育学部 1 年、大学院 1 年
6 月 25 日	教職員健康診断
2 月 5 日	体育学部 3 年、幼児発達学専攻 1 年、大学院 1 年

注：2 月の健康診断は最終学年春の健康診断として実施している (本文参照)。

(2) 検査項目

表 2. 学生の健康診断

	学 部				大学院	
	1 年	2 年	3 年	4 年	1 年	2 年
身長・体重	○	○	○	○	○	○
視 力		幼児発達学専攻のみ実施	幼児発達学専攻のみ実施	○		
聴 力		幼児発達学専攻のみ実施	幼児発達学専攻のみ実施	○		
内 科	○	○	○	○	○	○
胸 部 X 線	○	○	○	○	○	○
貧 血	○			○	○	
尿 検 査	○	○	○	○	○	○
血 圧	○			○	○	
心 電 図	○			○	○	

注：学部 4 年、幼児発達学専攻 2 年、大学院 2 年はそれぞれ 3 年、1 年の 2 月実施

表 3. 教職員の健康診断 (平成 15 年度)

専任教職員全員	胸部 X 線・血圧測定・尿検査・視力・聴力・血液検査 (貧血、血中脂質含)
同 30 歳以上の女性	総合婦人健診 (子宮細胞診、乳房エコー)
同 35 歳以上	胃部 X 線・心電図・眼底・眼圧・大腸ガン検診
同 40 歳以上	B 型・C 型肝炎 (採血)
同 50 歳以上の男性	前立腺検査 (採血)

(3) 医師および担当機関

学生健康診断：内科 ：杏林大学医学部内科
 その他 ：医療法人財団 東友会 友愛クリニック
 ：松井外科病院健診センター
 職員の健康診断：板橋中央病院附属中央検診センター

(4) 受診者率

表 4. 学生の定期健康診断の受診者率

	年 度									
	11		12		13		14		15	
	受診者/ 在籍者	(%)	受診者/ 在籍者	(%)	受診者/ 在籍者	(%)	受診者/ 在籍者	(%)	受診者/ 在籍者	(%)
学部										
1 年	682/689	99.0	677/683	99.1	643/646	99.5	621/624	99.5	618/618	100
2 年	445/464	95.9	639/668	95.6	637/668	95.3	614/643	95.4	589/619	95.1
3 年	485/504	96.2	475/492	96.5	616/638	96.5	615/646	95.2	605/620	97.5
4 年	441/470	93.8	474/499	94.9	477/494	96.5	623/654	95.2	625/670	93.2
大学院										
1 年	13/15	86.7	14/15	93.3	13/15	86.6	16/16	100	19/20	95.0
2 年	16/16	100	14/17	82.3	6/13	46.1	11/15	73.3	14/15	93.3
短大										
2 年	372/445	83.6								

表 5. 教職員の定期健康診断の受診率

	年 度									
	11		12		13		14		15	
	受診者/ 在籍者	(%)	受診者/ 在籍者	(%)	受診者/ 在籍者	(%)	受診者/ 在籍者	(%)	受診者/ 在籍者	(%)
胸部X線	116/165	70.3	123/163	75.4	122/145	84.1	121/147	82.3	117/138	84.7
検 尿	102/158	64.5	96/143	67.1	116/145	80.0	110/147	74.8	112/138	81.1
血 圧	106/158	67.0	100/143	69.9	117/145	80.6	114/147	77.5	114/138	82.6
視 力	103/158	65.1	93/143	65.0	114/145	78.6	114/147	77.5	113/138	81.8
聴 力	103/158	65.1	95/143	66.4	115/145	79.3	114/147	77.5	112/138	81.1
血液検査	84/128	65.6	88/123	71.5	118/145	81.3	114/147	77.5	112/138	81.1
胃部X線	37/128	28.9	42/123	34.1	46/101	45.5	41/96	42.7	43/88	48.8
心電図	75/128	58.5	80/123	65.0	78/101	77.2	71/96	42.7	69/88	78.4
眼底・眼圧					78/101	77.2	71/96	42.7	68/88	77.2
大腸ガン					68/101	67.3	55/96	57.2	58/88	65.9
前立腺					24/38	63.1	19/27	70.3	18/23	78.2
子宮ガン					28/52	53.8	18/51	35.2	23/46	50.0
乳房エコー					33/52	63.4	22/51	43.1	28/46	60.8
B型・C型 肝炎							67/88	76.1	66/78	84.6

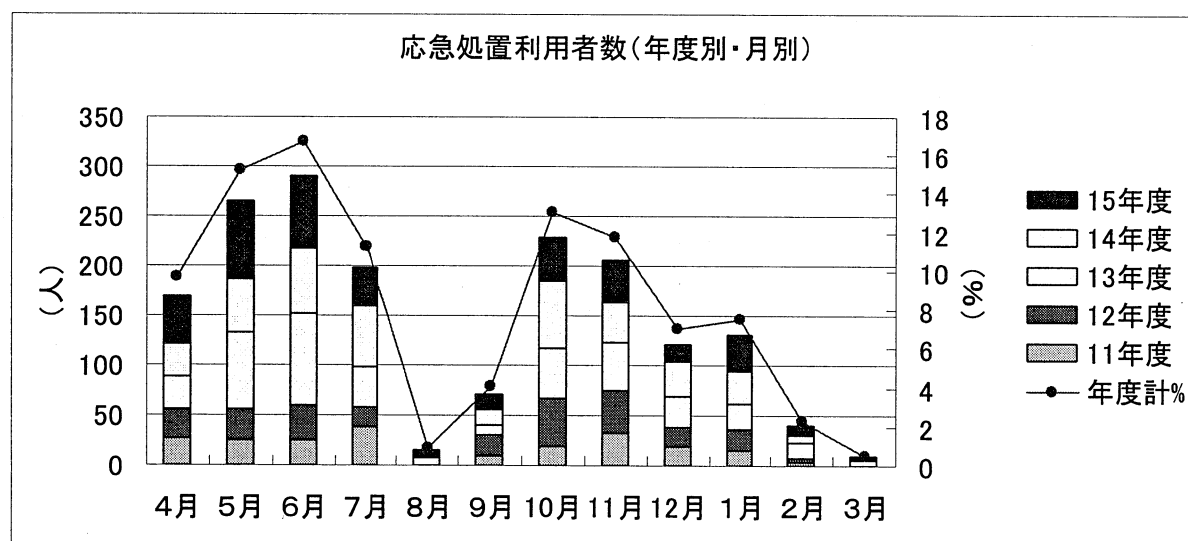
2. 健康管理センター利用状況

(1) 健康管理室（応急処置）

① 年度別・月別利用者数

表6. 健康管理室の利用者数（年度・月別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
年 度	11	26	25	25	38	0	10	20	33	19	16	3	0	215
	12	29	31	35	20	0	20	48	42	19	21	5	0	270
	13	33	77	92	41	7	10	49	48	32	24	15	5	433
	14	33	53	65	61	3	15	68	41	33	34	7	1	414
	15	48	80	74	38	5	16	43	42	19	36	11	3	415
合計		169	266	291	198	15	71	228	206	122	131	41	9	1,747
%		9.7	15.2	16.7	11.3	0.9	4.1	13.1	11.8	7	7.5	2.3	0.5	100



② 応急処置の内訳

表 7 - 1 . 応急処置内訳件数

		内科的処置	整形外科的処置	外科的処置	その他	合計
年度	11	61	81	52	21	215
	12	94	85	56	35	270
	13	157	108	83	85	433
	14	143	97	72	102	414
	15	172	69	82	92	415
合計		627	440	345	335	1,747
%		35.9	25.2	19.7	19.2	100

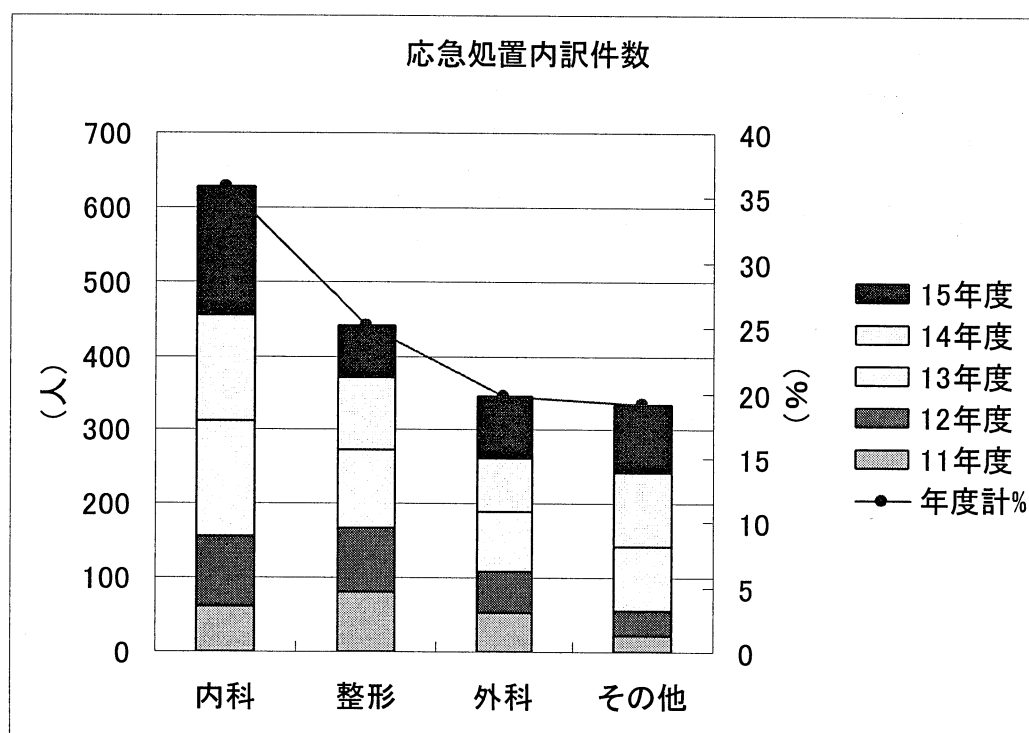
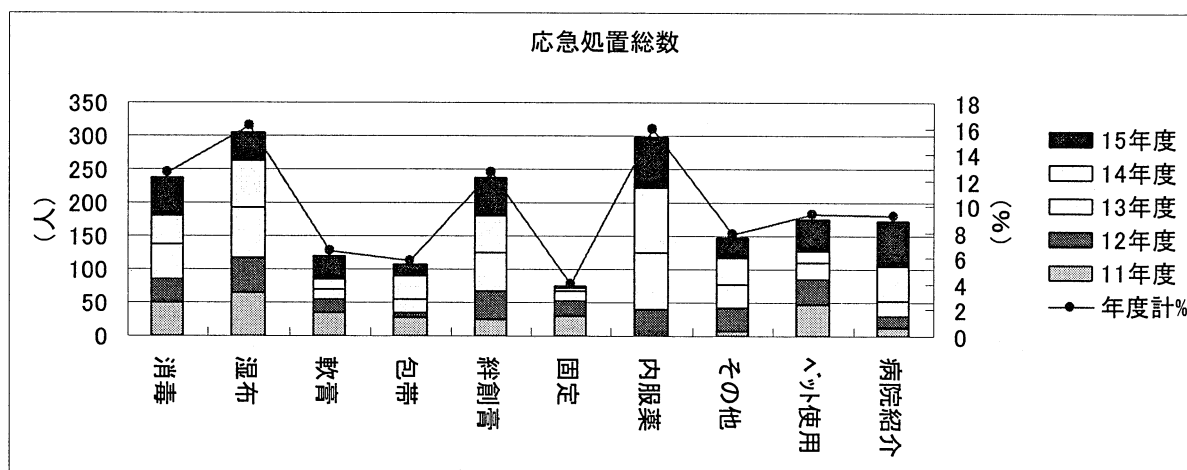


表 7 - 2 . 応急処置総数

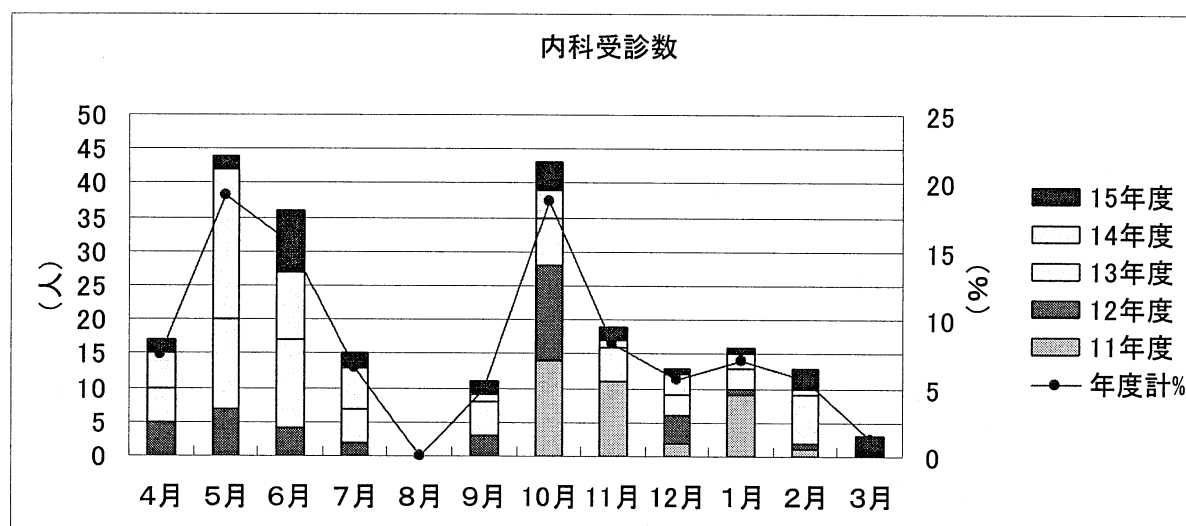
		消毒	湿布	軟膏	包帯	絆創膏	固定	内服薬	その他	ペット使用	病院紹介	合計
年 度	11	49	64	35	27	25	30	0	8	48	12	298
	12	36	53	21	8	43	23	40	35	37	18	314
	13	53	75	15	21	57	15	84	34	24	22	400
	14	43	71	15	33	55	4	99	41	18	54	433
	15	56	41	35	19	57	3	75	29	49	66	430
合計		237	304	121	108	237	75	298	147	176	172	1,875
%		12.6	16.2	6.5	5.8	12.6	4	15.9	7.8	9.4	9.2	100



③ 内科受診数

表 7 - 3 . 内科受診数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
年 度	11							14	11	2	9	1	0	37
	12	5	7	4	2	0	3	14	0	4	1	1	0	41
	13	5	13	13	5	0	5	7	5	3	3	7	0	66
	14	5	22	10	6	0	1	4	1	3	2	1	0	55
	15	2	2	9	2	0	2	4	2	1	1	3	3	31
合計		17	44	36	15	0	11	43	19	13	16	13	3	230
%		7.4	19.1	15.7	6.5	0	4.8	18.7	8.3	5.7	7	5.7	1.3	100

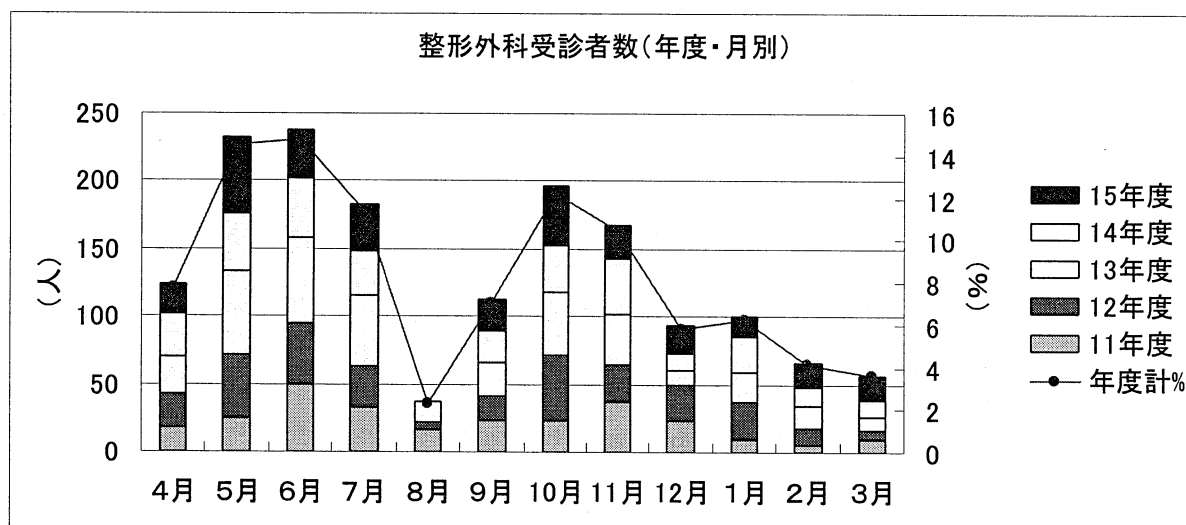


(2) 整形外科

① 年度別・月別利用者数

表8. 整形外科受診者数(年度・月別)

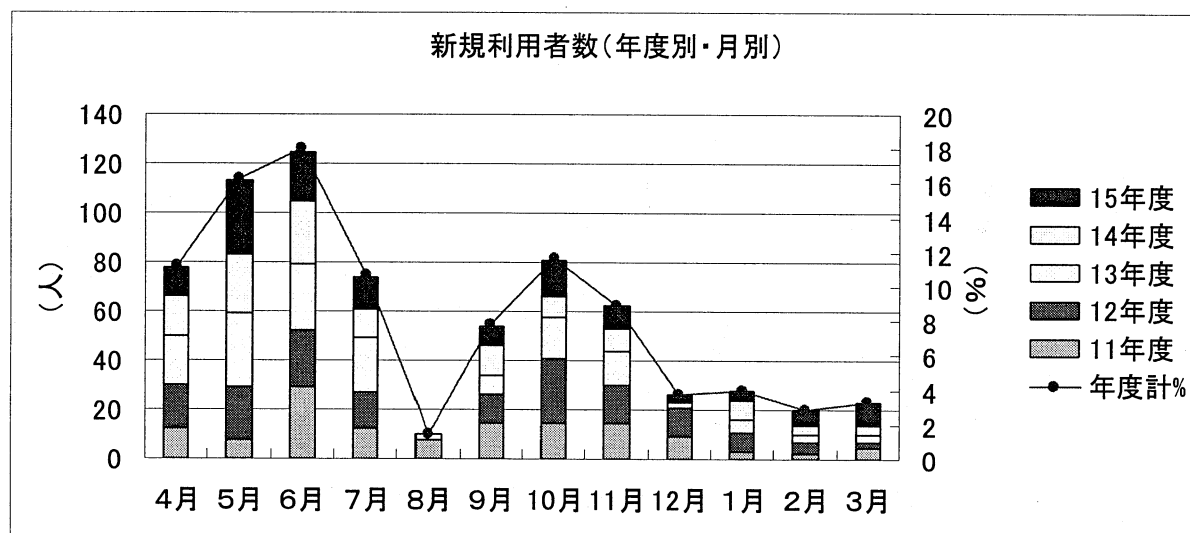
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
年度	11	18	25	50	33	17	23	23	37	24	10	5	9	274
	12	24	47	45	30	5	18	49	28	25	27	13	8	319
	13	28	61	63	52	15	25	46	37	11	22	16	9	385
	14	31	43	44	33	0	23	35	41	13	26	14	12	315
	15	22	56	36	35	0	23	43	25	20	15	18	19	312
合計		123	232	238	183	37	112	196	168	93	100	66	57	1.605
%		7.7	14.5	14.8	11.4	2.3	7	12.2	10.5	5.8	6.2	4.1	3.6	100



② 年度別・月別新規利用者数

表 9. 整形外科の新規利用者数（年度別・月別）

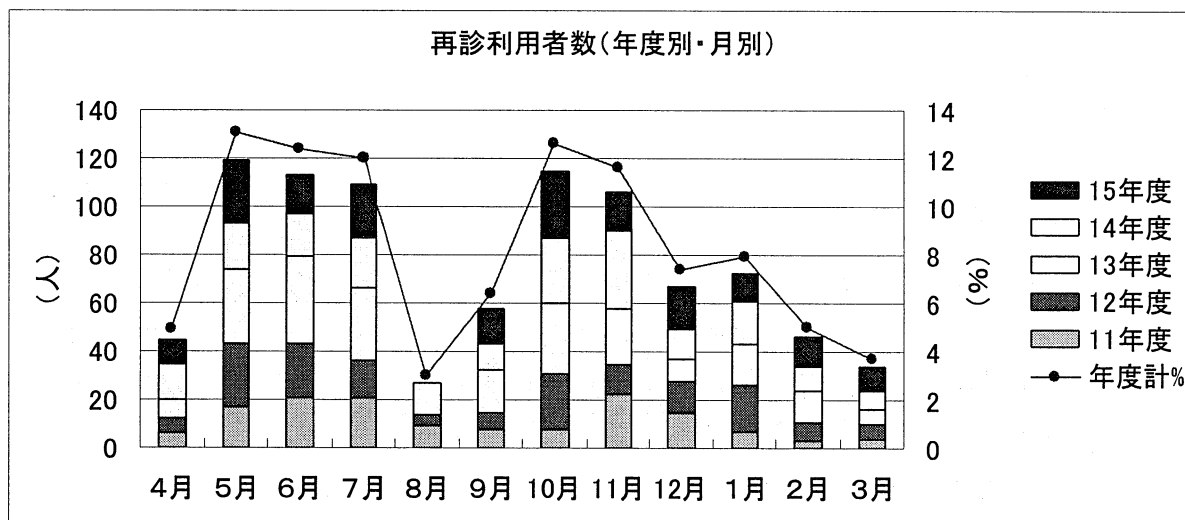
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
年 度	11	12	8	29	12	8	15	15	15	9	3	2	5	133
	12	18	21	23	15	0	11	26	15	12	8	5	2	156
	13	20	30	27	22	2	8	17	14	2	5	3	3	153
	14	16	24	26	12	0	12	8	9	1	8	4	4	124
	15	12	30	20	13	0	8	15	9	2	4	6	9	128
合計		78	113	125	74	10	54	81	62	26	28	20	23	694
%		11.2	16.3	18	10.7	1.4	7.8	11.7	8.9	3.7	4	2.9	3.3	100



③ 年度別・月別再診利用者数

表 10. 整形外科の再診利用者数 (年度別・月別)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
年 度	11	6	17	21	21	9	8	8	22	15	7	3	4	141
	12	6	26	22	15	5	7	23	13	13	19	8	6	163
	13	8	31	36	30	13	17	29	23	9	17	13	6	232
	14	15	19	18	21	0	11	27	32	12	18	10	8	191
	15	10	26	16	22	0	15	28	16	18	11	12	10	184
合計		45	119	113	109	27	58	115	106	67	72	46	34	911
%		4.9	13.1	12.4	12	3	6.4	12.6	11.6	7.4	7.9	5	3.7	100

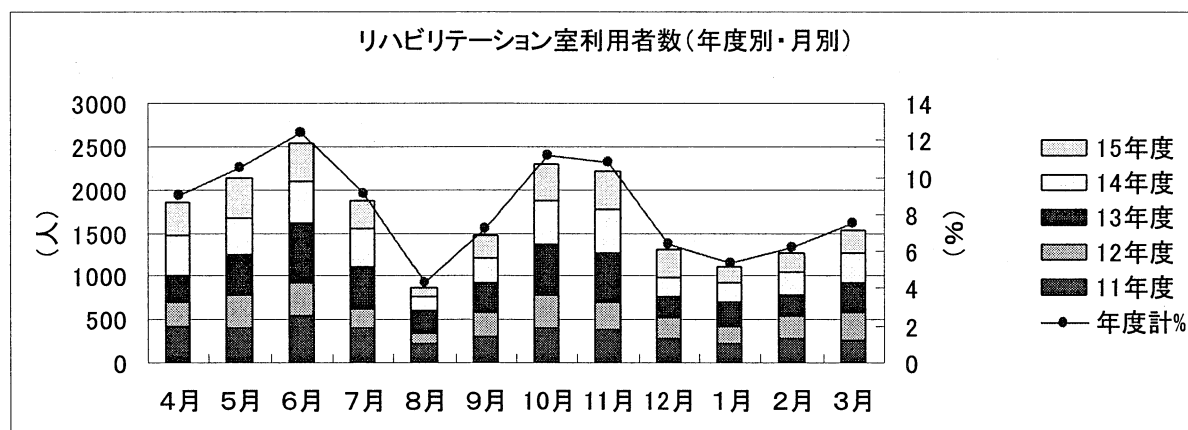


(3) リハビリテーション室

① 年度別・月別利用者数

表 1 1. リハビリテーション室の利用者数 (年度・月別)

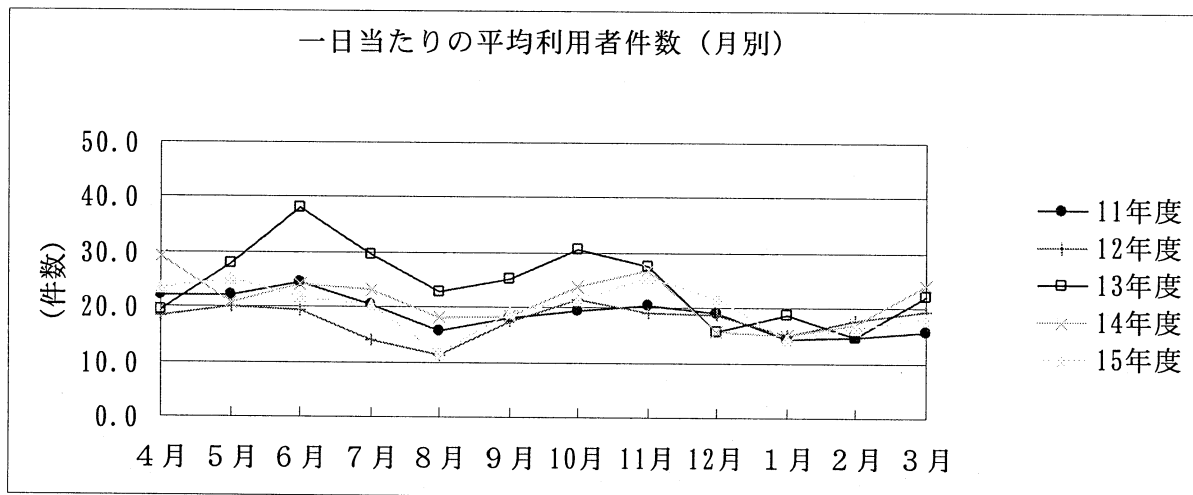
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
年 度	11	422	396	542	406	220	308	408	385	284	214	278	266	4,129
	12	291	382	386	209	123	277	383	325	242	210	267	309	3,404
	13	290	474	688	501	251	351	583	549	236	279	232	352	4,786
	14	471	413	484	440	162	275	497	511	218	223	273	336	4,303
	15	372	479	433	307	114	266	425	436	324	185	212	270	3,823
合計		1,846	2,144	2,533	1,863	870	1,477	2,296	2,206	1,304	1,111	1,262	1,533	20,445
%		9	10.5	12.4	9.1	4.3	7.2	11.2	10.8	6.4	5.4	6.2	7.5	100



② 1日当たりの平均利用者数（年度別・月別）

表 1 2. 一日当たりの平均利用者数（年度別・月別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年度	11	22.2	22.0	24.6	20.3	15.7	18.1	19.4	20.3	18.9	14.3	14.6	15.6
	12	18.2	20.1	19.3	13.9	11.2	17.3	21.3	19.1	18.6	15.0	17.8	19.3
	13	19.3	27.9	38.2	29.5	22.8	25.1	30.7	27.5	15.7	18.6	14.5	22.0
	14	29.4	20.7	24.2	23.2	18.0	18.3	23.7	26.9	15.6	14.9	17.1	24.0
	15	23.3	25.2	21.7	20.5	11.4	19.0	21.3	25.6	21.6	14.2	16.3	18.0

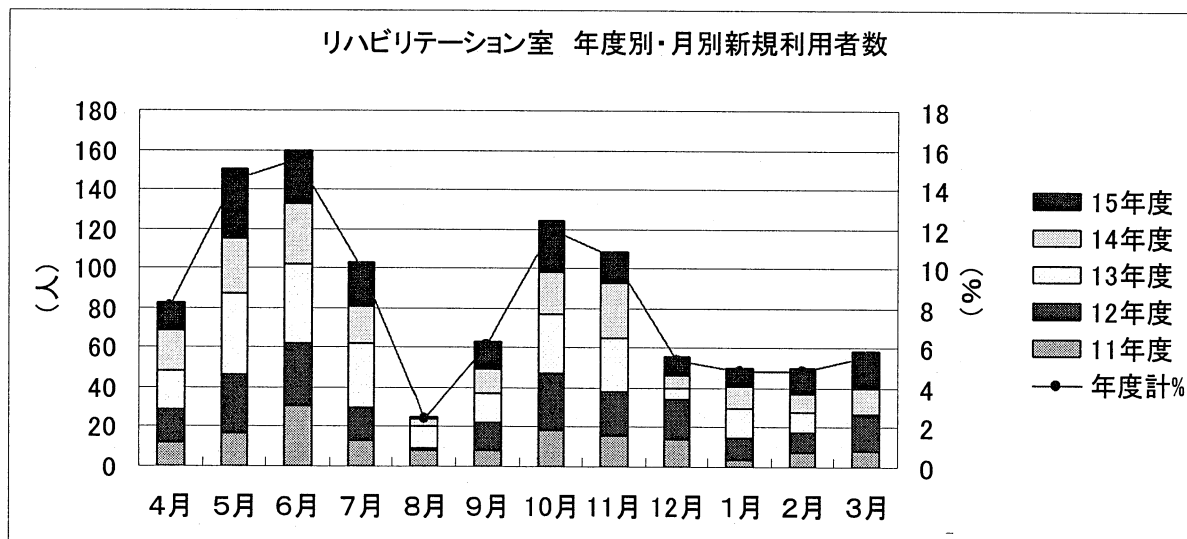


③ 年度別・月別新規利用者

(ア) 年度別・月別新規利用者数

表 1 3. リハビリテーション室の新規利用者数 (年度別・月別)

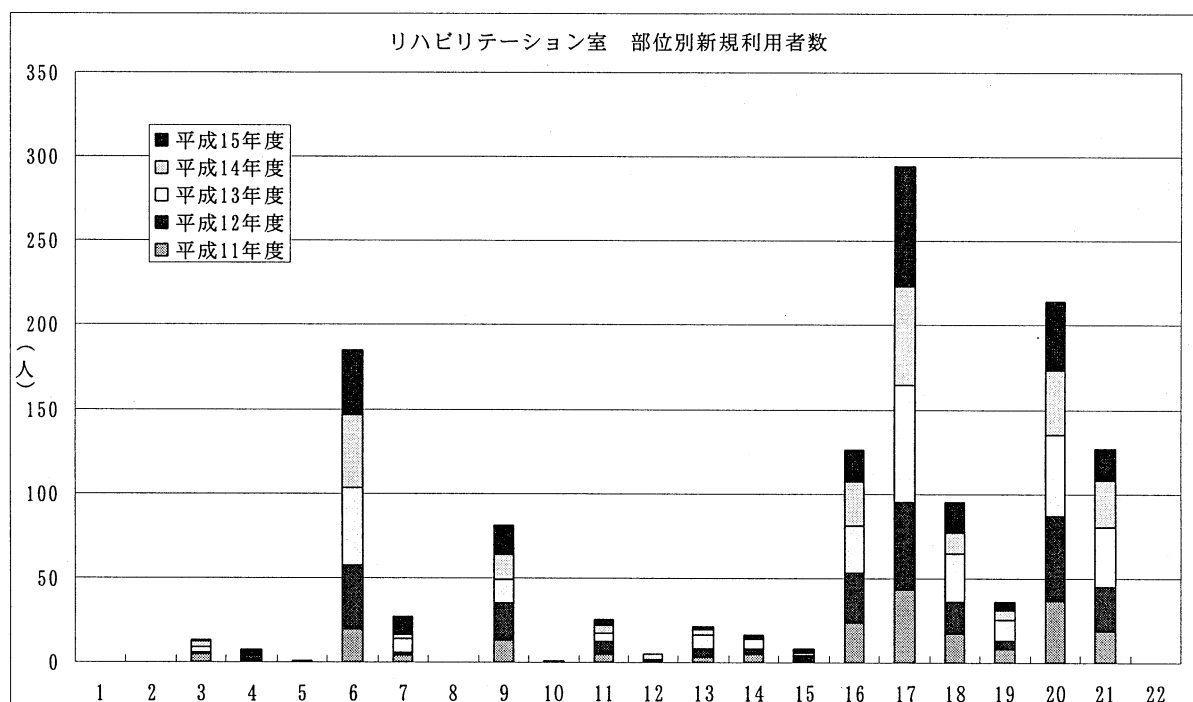
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
年 度	11	12	17	31	13	8	8	19	16	14	4	7	8	157
	12	17	29	31	17	1	14	28	22	20	11	11	18	219
	13	19	41	40	32	11	15	30	27	6	15	10	1	247
	14	21	28	31	19	4	12	21	28	6	11	9	13	203
	15	14	35	27	22	1	14	26	16	10	9	13	18	205
合 計		83	150	160	103	25	63	124	109	56	50	50	58	1,031
年 度 計%		8.1	14.5	15.5	10	2.4	6.1	12	10.6	5.4	4.8	4.8	5.6	100



(イ) 年度別・月別新規の部位数

表 1 4. 新規の部位別利用者数 (年度別・月別)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
年 度	11	13	23	46	16	11	10	29	20	18	4	9	10	209
	12	20	39	40	22	1	17	27	29	23	14	14	25	271
	13	23	55	51	39	12	16	34	37	7	22	10	7	313
	14	26	38	42	25	4	16	23	32	7	12	10	16	251
	15	16	46	36	28	1	14	35	17	11	10	18	23	255
合 計		98	201	215	130	29	73	148	135	66	62	61	81	1,299
年 度 計%		7.5	15.5	16.6	10	2.2	5.6	11.4	10.4	5.1	4.8	4.7	6.2	100



1＝頭部 2＝顔面 3＝頸部 4＝胸部 5＝腹部 6＝腰・背部 7＝骨盤・臀部 8＝鎖骨部
 9＝肩関節 10＝上腕部 11＝肘関節 12＝前腕部 13＝手関節 14＝手・手指部
 15＝股関節 16＝大腿部 17＝膝関節 18＝下腿部 19＝アキレス腱部 20＝足関節 21＝足・足指部
 22＝その他

(ウ) 年度別理学療法実施件数

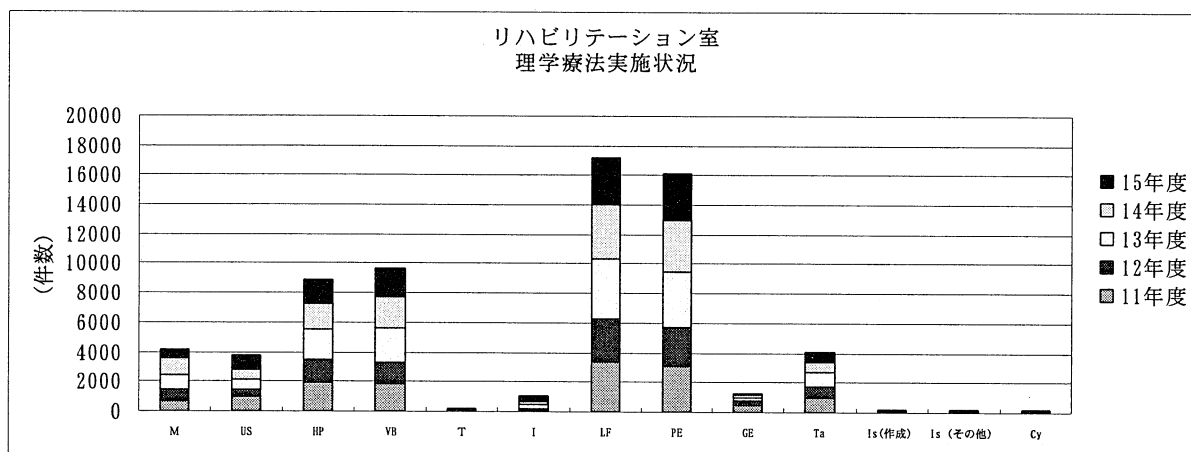
表 15. 理学療法実施件数 (年度別)

		M	US	HP	VB	T	I	LF	PE	GE	Ta	Is(作 成)	Is(そ の他)	Cy
年 度	11	709	967	1.891	1.813	87	110	3.388	3.097	498	968	52		40
	12	783	463	1.604	1.476	69	123	2.857	2.568	256	754	15	50	37
	13	968	743	1.993	2.303	22	213	4.109	3.765	246	1.013	38	84	23
	14	1.100	665	1.739	2.148	19	211	3.698	3.469	121	636	27	64	50
	15	565	969	1.617	1.905	14	363	3.125	3.253	95	652	18	31	42
合計		4.125	3.807	8.844	9.645	211	1.020	17.177	16.152	1.216	4.023	150	229	192

M＝マッサージ US＝超音波 HP＝ホットパック VB＝渦流浴 T＝牽引 LF＝低周波

PE＝患部訓練 GE＝患部外訓練 Ta＝テーピング Is＝足底板 Cy＝筋力測定

* 超音波治療器 (リ-ス開始：平成7年11月～)



(エ) 運動部・同好会別新規利用者数

表 1 6—1. 運動部・同好会別新規利用者数 (年度別)

所属内訳	年度				
	11	12	13	14	15
陸上競技	52	48	83	58	37
バスケットボール	25	39	41	50	68
バレーボール	40	56	39	40	42
ラグビー	3	4	37	20	26
チアリーディング	25	8	10	11	12
サッカー	14	18	11	12	1
バドミントン	1	10	7	5	1
ハンドボール	0	4	7	2	8
体操競技	3	5	3	2	6
その他	24	46	42	22	24
なし	18	29	33	26	24
合計	153	219	230	190	212

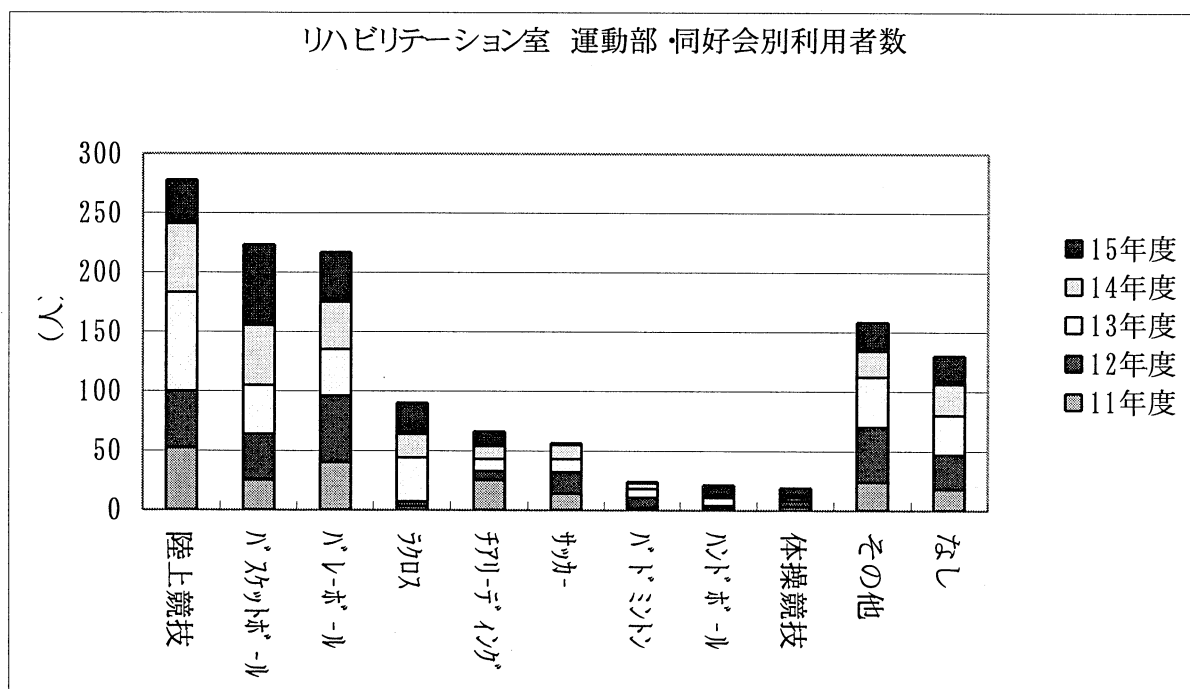


表 1 6—2. その他の運動部・同好会別新規利用者数（年度別）

所属内訳	年度					合 計
	11	12	13	14	15	
モダンダンス	2	6	6	5	0	19
水泳	1	0	4	3	8	16
舞踊	0	7	3	0	5	15
フェンシング	0	5	3	3	2	13
ソフトテニス	2	1	4	4	0	11
ソフトボール	2	8	1	0	0	11
スキー	6	0	0	1	4	11
剣道	4	2	5	0	0	11
少林寺拳法	0	2	3	5	0	10
競技ダンス	3	0	6	0	1	10
新体操	2	3	1	0	4	10
ライフェービング	2	4	3	1	0	10
スケート	0	3	0	0	0	3
卓球	0	0	3	0	0	3
なぎなた	0	2	0	0	0	2

基礎ｽﾎﾟｰﾂ	0	3	0	0	0	3
ｺﾞﾙﾌ	0	0	0	0	0	0
漕艇	0	0	0	0	0	0
軟式野球	0	0	0	0	0	0
合計	35	58	55	36	39	158

(オ) 傷害部位別新規利用者数

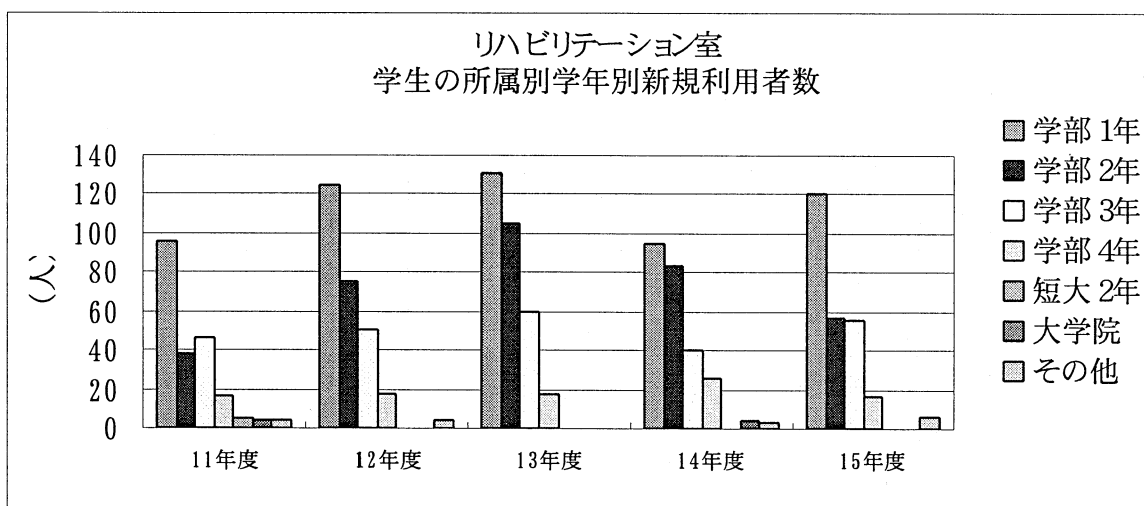
表 17. 部位別新規利用者数 (年度別)

部位	年度					計	%
	11	12	13	14	15		
頭部	0	0	0	0	0	0	0
顔面	0	0	0	0	0	0	0
頸部	5	1	3	3	1	13	1
胸部	1	3	1	1	1	7	0.5
腹部	0	1	0	0	0	1	0.1
腰・背部	20	37	46	43	39	185	14.4
骨盤・臀部	4	2	8	2	11	27	2.1
鎖骨部	0	0	0	0	0	0	0
肩関節	13	22	14	15	17	81	6.3
上腕部	0	1	0	0	0	1	0.1
肘関節	5	7	5	5	3	25	2
前腕部	1	1	0	3	0	5	0.4
手関節	3	5	8	4	1	21	1.6
手・手指部	5	3	6	1	1	16	1.2
股関節	0	3	1	2	2	8	0.6
大腿部	24	29	28	26	19	126	9.8
膝関節部	43	52	69	59	71	294	22.9
下腿部	17	19	29	12	18	95	7.4
アキレス腱	8	5	12	6	5	36	2.8
足関節	37	50	48	38	41	214	16.7
足・足指	19	26	35	28	19	127	9.9
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	205	267	313	248	249	1282	100

(カ) 学生の所属別学年別新規利用者数

表 18. 所属別学年別新規利用者数

		学部 1 年	学部 2 年	学部 3 年	学部 4 年	短大 2 年	大学院	その他	合計
年 度	11	96	38	46	16	5	4	4	209
	12	125	75	50	17	-	0	4	271
	13	131	105	60	17	-	0	0	313
	14	95	83	40	26	-	4	3	251
	15	120	57	56	16	-	0	6	255
合計		567	358	252	92	5	8	17	1299



(4) カウンセリング室

① 年度別・月別利用状況

表 19. カウンセリング室利用状況（年度別・月別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
年度	12	4	11	17	16	2	6	14	16	12	9	2	0	109
	13	7	16	11	14	0	4	17	21	12	8	0	2	112
	14	9	18	18	22	1	8	36	28	16	14	8	4	182
	15	3	20	19	26	6	7	21	16	11	21	13	13	176
合計		23	65	65	78	9	25	88	81	51	52	23	19	579
%		3.9	11.2	11.2	13.5	1.6	4.3	15.2	14.0	8.8	9.0	4.0	3.3	100

前期は連休明けの5月～7月、後期は10月～12月前半の利用者が多い。14年度から利用者数増加の傾向が伺える。

② 相談内容別件数

表 20. 相談内容別利用者件数（延べ）

内容	年度				合計
	12	13	14	15	
心理的問題	45	34	56	55	190
身体的問題	1	0	12	23	36
部活動	33	7	22	38	100
学業	11	8	13	5	37
家族関係	3	2	22	3	30
進路	3	43	47	47	140
友人関係	9	18	7	5	39
その他	4	0	3	0	7
合計	109	112	182	176	579

心理的問題	摂食障害、自傷行為、抑うつ感、性格、不安感、対人緊張 他
身体的問題	怪我のための落込み、頭痛、疲労感、月経痛 他
部活動	成績が伸びない、部活動をやめたい 他
学業	授業が楽しくない、学校を休みがち 他
家族関係	家族関係が悪く家にいずらい、親の前だと緊張する、親が理解してくれない
進路	就職先について、再受験して他大学へ行きたい、他学科へ移りたい
友人関係	親しい友人ができない、人といると疲れてしまう、人との距離のとり方わからない
その他	友人、家族の精神的問題にどう対応していいかわからない

「心理的問題」 「進路」 「部活動」が多くなっている。

③ 学年別利用者件数

表 2 1. 学年別利用者件数 (延べ)

学年		年度				合計
		12	13	14	15	
学部	1	54	32	31	62	179
	2	35	42	9	14	100
	3	17	11	99	8	135
	4	0	26	33	90	149
大学院		1	0	0	0	1
その他		2	1	10	2	15
合計		109	112	182	176	579
%		18.8	19.3	31.4	30.4	100

※その他 : 教職員、学生の家族

4 年生の利用が増えている。特に 15 年度は、年明けから新規の申込みが多かった。

IV 関連資料

1. 関連研究会・会議への参加

健康管理室 看護師：全国大学保健研究集会 ・ 関東甲信越保健研究集会

リハビリテーション室 理学療法士：日本理学療法士学会 ・ スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会（17回発表、21回シボジスト）・エフテックス・インスティテュート全国研修会

2. 健康管理センターを利用した研究の発表

(1) 学会発表

板倉尚子 「大学運動部新入部員の外傷発生状況について～入学後3ヶ月の外傷発生状況～」第17回スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会研修会 1999年

(2) その他の雑誌等

- ①板倉尚子 「特集／競技復帰のシステムづくり」トレーニングジャーナル 1999年4月号 28
- ②板倉尚子 「日本女子体育大学健康管理センターリハビリテーション室概要」Sportsmedicine 1999年 No.25 95-101
- ③板倉尚子 「保健室だより」 女子体育 2002年1月号 58-59
- ④板倉尚子 「特集／スポーツ医療と理学療法」Sportsmedicine 2002年9・10月合併号 12-14
- ⑤板倉尚子 「特集／身体的弱点の見極め方」トレーニングジャーナル 2004年5月号 12-15

3. 健康管理センター職員

平成15年度3月

センター長：中村 泉
健康管理医：赤間高雄
看護師：前田真弓
：柘植朋子（非常勤）
理学療法士：板倉尚子
リハビリ室診療補助：國吉真理子（非常勤）
野中咲子（非常勤）
整形外科医：鳥居 俊（非常勤）
今井一博（非常勤）
内科医：田下祐生子（非常勤）
事務：鈴木準子（非常勤）
カウンセラー：上平京子（非常勤）

平成16年度3月

センター長：中村 泉
健康管理医：内田彰子
看護師：前田真弓
：柘植朋子（非常勤）
理学療法士：板倉尚子
リハビリ室診療補助：野中咲子（非常勤）
酒井理恵（非常勤）
整形外科医：鳥居 俊（非常勤）
中川種史（非常勤）
白土貴史（非常勤）
内科医：田下祐生子（非常勤）
事務：鈴木準子（非常勤）
カウンセラー：上平京子（非常勤）

4. 健康管理センター運営委員会

平成11年度

中村泉（センター長）、高橋和之学科長、加賀谷淳子学科長、渋谷貞夫学科長、平尾智恵子学生部長、黒田善雄（健康管理医）、増本項、寺山喜久、赤羽久美子、江幡玲子、事務局長、総務課長、学生課長

平成12年度

中村泉（センター長）、高橋和之学科長（学生部長）、加賀谷淳子学科長、渋谷貞夫学科長、赤間高雄（健康管理医）、増本項、事務局長、総務課長、学生課長

平成13年度

中村泉（センター長）、高橋和之学科長（学生部長）、加賀谷淳子学科長、渋谷貞夫学科長、赤間高雄（健康管理医）、川野因、事務局長、総務課長、学生課長

平成14年度

中村泉（センター長、学科長）、石川尚子研究科長、高橋和之学科長（学生部長）、赤間高雄（健康管理医）、田島啓子、川野因、事務局長、総務課長、学生課長

平成15年度

中村泉（センター長、学科長）、石川尚子研究科長、高橋和之学科長、赤間高雄（健康管理医）、田島啓子、笹倉清則、事務局長、総務課長、学生課長

平成16年度

中村泉（センター長、学科長）、石川尚子研究科長、高橋和之学科長、内田彰子（健康管理医）、田島啓子、笹倉清則、事務局長、総務課長、学生課長